

郷土の扉

The gateway to local history

隼人と聞くと、何を思い浮かべますか。霧島市の地名である隼人町を思い浮かべる人が多いと思います。鹿児島島の男、勇猛果敢、男らしい、薩摩武士といったイメージも含めて薩摩隼人という言葉を感じませんか。人もいるかもしれません。

この隼人のルーツは、古代の南九州に存在していた人々・隼人からきています。隼人族として、独自の民族と捉えられがちですが、一体どのような人々だったのでしょうか。

一方的に付けられた名前

諸説ありますが、隼人はおよそ1300年前、7世紀から9世紀に南九州に住んでいた人たちの総称です。

当時、朝廷は奈良を都とし、天皇を中心とした律令で治める国づくりの真っ最中でした。奈良から遠く離れた南九州の人々

は、独自の文化圏を持っていたのか、その支配体制にすぐには入りませんでした。そもそも南九州はシラスなどの火山性土壌で稲作が難しく、米を税として納める支配体制とは相いれなかったのかもしれませんが。

朝廷は南九州の人々を、支配に抵抗する辺境の地の野蛮な民族と考えていました。そのため、東北の蝦夷えみしと同様に、違う民族と見なして、政治的に「隼人」と呼び名を付けました。

隼人という名

南九州の人々が一つの文化を共有していたかは分かりませんが、当時から「阿多隼人」「大隅隼人」「日向隼人」といった呼称が使いつけられているので、地域的な差があったと考えられます。

隼人の名前の由来については多くの説がありますが、中国の四神思想に基づいて、朝廷の南を守護する存在に位置付けるために、朱雀を意味する「隼」の字を使ったという説が定

説化してきています。隼人と呼ばれた人々は、朝廷からすると野蛮な民族と認識する一方、不思議な呪力を持つていたとも認識していたのです。隼人と呼ばれた人々は、朝廷からの支配に対して度々、武力をもって抵抗しますが、徐々に朝廷の支配に組み込まれていき、隼人の文字は朝廷側の記録からなくなっていくます。隼人はあくまで、朝廷の支配下になかった時期だけの名前だったので。

イメージとのギャップ

隼人という言葉やイメージは、誇らしさや男らしさの意味で使われがちです。しかし、本来の隼人とは、南九州にいた老若男女すべてを指し、勝手に呼ばれていただけの名前なのです。

隼人という存在は、朝廷の支配下に置かれたことでなくなりませんが、江戸時代に国学などの学問でその名

隼人塚史跡館企画特別展



開催中



隼人について詳しく、分かりやすく展示しています。9月には隼人に関するシンポジウム・講演会を開催予定です。(詳細は19ページをご覧ください)

問=社会教育課 ☎ (64) 0708

前が一般に広まり、「隼」という字から勇猛果敢・薩摩武士というイメージと融合して使用されていたのだと思われま。

地名に関しても、隼人が住んでいたから隼人町という地名が付いたのではなく、隼人塚が町内にあったために昭和3(1928)年に西国分という地名から隼人町という名前になりました。

隼人とは、イメージと実態が離れて今に伝わるものなのです。

(文責=小水流)